

設備工事情報シート	その他	Ⅱ-S-5-改 ₁	制定	2009年4月1日
			改訂	2016年3月1日
機器・材料	貫通口施工位置の確認		日本ヒルティ編	

1. 目的および概要

貫通口を施工する際、リニューアル工事等の図面に頼ることが難しい現場では、煩雑な計測を繰り返したり、試し穴の施工など非常に手間がかかっていた。

トランスポインタ PX10は、トランスミッタから磁場を放射し、レシーバによって検知、状態表示シグナルの矢印を合わせることにより裏側のポイントを示す。

また、同時にその2点間の距離（厚さ）を推定することができる。

貫通口施工位置の決定のほか、X線方式のコンクリート非破壊検査におけるフィルム位置決めにも有効である。

2. システムの内容・特徴

技術データ

- ・標準測定範囲 : 0.05m~1.35m（測定する壁・床の厚さ）
- ・平均位置測定精度
 - ※標準 : 200mmにつき±8mm（1mまで）
 - ※最小 : 200mmにつき±2mm（1mまで、金属影響のない場合）
- ・厚さ測定精度 : 壁や床厚の±5%
- ・電池 : 9Vアルカリ電池 各1個
約17時間使用可能
- ・寸法 : 160×95×33mm（PX10Tトランスミッタ）
210×95×33mm（PX10Rレシーバ）
- ・重量（電池含む） : 240g（PX10T トランスミッタ）
275g（PX10R レシーバ）
- ・耐候性（電池収納部分を除く） : 防塵防水構造（IP56）



トランスポインタ PX10

左 : PX10R レシーバ

右 : PX10T トランスミッタ



使用方法

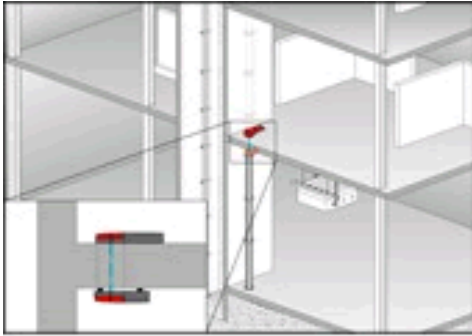
1. PX10TトランスミッタおよびPX10Rレシーバの「ON/OFF」ボタンを押し、本体をオンにする。
2. PX10Tトランスミッタを中央の穴または外側マーキングに合わせ、基準点に固定する。
（固定用として粘着パテ、両面テープが付属）
3. レシーバがトランスミッタの測定範囲内にある場合、状態表示シグナルが点灯する。
作業者は点灯した矢印方向にトランスミッタを移動させる。
センターが見つかり、4個の矢印が全て点灯する。
レシーバの本体ヘッド部中央の穴または外側のマーキング用切込みを使いマーキングする。
4. レシーバのインジケータがセンターで点灯する場合、トランスミッタとレシーバの距離は最低値と最高値で表示される。（絶対値ではない）
5. 傾斜アダプターを使うことにより、角度のついた位置あわせや、2点間の角度の測定も可能。

注意事項

- ・レシーバは常にトランスミッタと平行になるように配慮する。
- ・壁の端部や隣接する鉄筋コンクリート壁のすぐ近くでは正確な測定が難しい（200mm程度ずらすことを推奨）
- ・鋼製デッキを用いたスラブ構造での探査には使用できません。

資 料

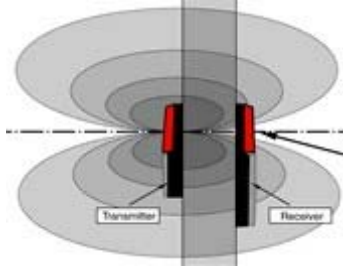
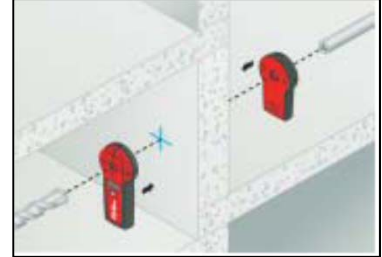
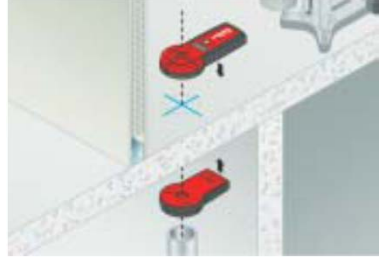
3. 用途ごとの使用方法



(1)貫通口施工位置の把握/出口位置から穿孔開始ポイントの位置決め

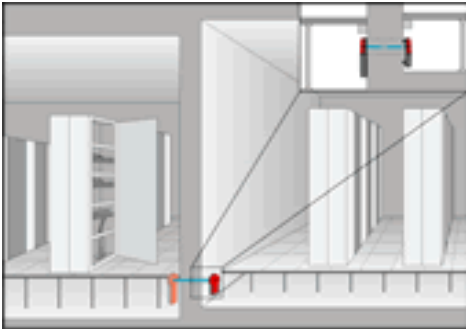
貫通口施工位置の把握。コンクリートやブロック造などの壁や床に貫通口を施工する際、ビットの出口位置をあらかじめ把握できます。

反対に出口位置から穿孔開始ポイントを決めることもできます。



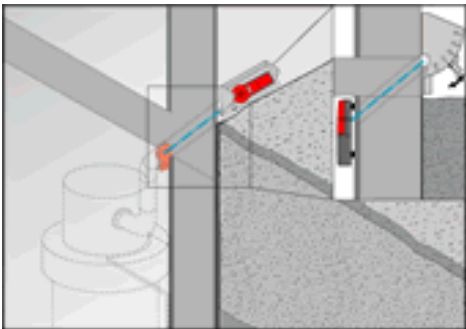
コンクリートスラブの下面の
ポイントを上面から探し当て

床の高さの違う部屋間での貫
通口の位置決め



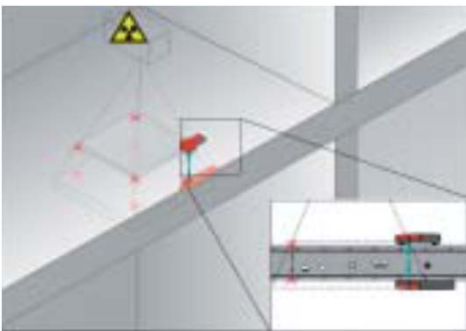
(2)壁や床厚の測定

壁や床厚の測定。貫通口施工に使うハンマードリル、ダイヤモンドコアツールのビット長さを確認できます。



(3)床の高さの違う部屋間での角度のある貫通口の位置決め

角度のある貫通口施工の穿孔開始ポイントと出口位置も、付属の傾斜アダプターで容易に把握することができます。



4. 問い合わせ先

日本ヒルティ株式会社 カスタマーサービス

電話番号 フリーダイヤル 0120-66-1159 (平日 8:30~18:30)